

## 北奄美周辺方言の音韻の特徴

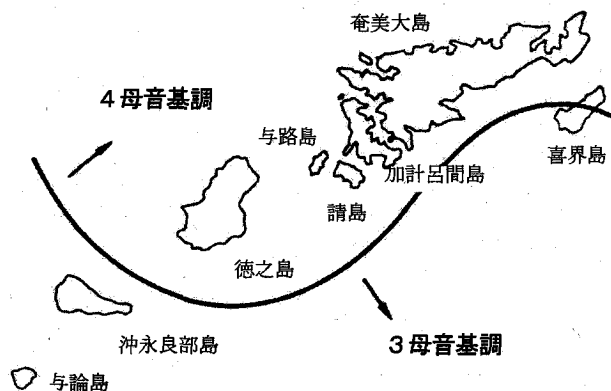
—喜界島方言・瀬戸内町方言—

大野 眞 男\*

(2003年10月31日受理)

### 1. 喜界島方言・瀬戸内町方言の位置づけ

母音体系の面から奄美方言全体を俯瞰すると、3母音を基調として沖縄方言と連続的な性格を持つ方言(沖永良部島・与論島・喜界島南部)と、中舌母音を含めて4母音を基調とする方言(奄美大島・加計呂間島・与路島・請島・喜界島北部・徳之島)とに分かれる。地理的にこれらの方言を位置づけると、概して奄美北部が4母音基調、奄美南部は3母音基調の母音体系となっている。中本(1976)等によると、歴史的には北部の4母音基調の母音体系が古く、奄美南部は3母音基調の母音体系は北部の中舌母音がイ段母音に統合されて生じた新しい体系と考えられている。



奄美北部方言に関する主たる先行研究としては、岩倉(1941)・服部(1959)・平山ほか(1966)・中本(1976)・長田ほか(1977・1980)・柴田ほか(1977)・三石(1980)・輝(1981・1984)・柴田(1984)・寺師(1985)・平山(1986)・沖縄言語研究センター(1989)・三石(1993)・狩俣(1995・1996)・木部ほか(1997)などがある。しかし、北奄美の北端に位置づく喜界島方言については島内における方言差の地理的多様性が十全に把握されているとはいいがたく、同じく南部に位地づく与路島・請島方言については基礎的・体系的資料自体が十分に調査・報告がなされていないのが実態である。本論は、喜界島内の複数地点と与路島・請島方言を含む瀬戸内町方言を

\* 岩手大学教育学部

とりあげて、その概要と多様性について報告する。なお、喜界町方言は2001年及び2002年、瀬戸内町方言は2002年の筆者による臨地調査により得られた資料にもとづく。

## 2. 喜界町方言の音韻の概要

喜界島は、狭隘な島ながら集落ごとの方言差はきわめて大きいことがよく知られている。岩倉(1941)においても、北部の中舌母音などについては触れていない。本報告では小野津・塩道・湾・上嘉鉄・阿伝の5地点をとりあげて、喜界島方言の音韻の多様性について以下に説明する。

### 2. 1. 中舌母音

奄美最北端の喜界島は狭隘な島ながら、北半分が中舌母音を有する方言、南半分が有しない方言と二分することができる。喜界島北部においても奄美大島方言のような多様な中舌母音拍を持たない。中本(1976)・輝(1981)・輝(1984)などの報告があるが、筆者の臨地調査による資料により中舌母音拍をめぐる状況を以下に示す。北部に位置し比較的中舌音をよく残している小野津方言の中舌拍語例を、その他の地点と対比して示す。なお、喜界島方言の報告としては最も古い岩倉(1941)には、小野津に特殊な母音があるとしながらも中舌母音には触れていない。また、中本(1976)では塩道方言においても中舌母音が報告されているが、筆者による臨地調査では *si* の拍を含めて確認されなかったし、沖縄言語センター(1986)でも報告されていない。中本の調査後にイ段音化したものと考えられる。

小野津方言でエ段起源の中舌音であることを十全に確認できたのは唇調音の子音と結合する場合であり、代表的な語例は以下に示す通りである。これらの子音以外に結合する場合には、小野津方言においてもすべてイ母音化しており、喜界島北部の中舌母音がすでに退潮傾向にあることがうかがわれる。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
目	m <sup>w</sup> i:	mi:	mi:	mi:	mi:
亀	hami	hami	hami:	hami	hami
嫁	jumi	jumi	jumi	jumi	jumi
米	ɸumi	ɸumi	ɸumi	ɸumi	ɸumi
豆	mami	mami	mami	mami	mami
爪	tsumi	t'umi	t'umi	tumi	tumi
姪	mikk'wa	mikk'a	mikk'a	mikka	mikka
鍋	nabi	nabi	nabi	nabi	nabi
子ども	warabi/k'wa	k'a	k'a	k'a	warabi
へら	pira/ɸira	pira	hera	—	çira
屁	pi:	pi:	çi:	çi:	ɸi/çi:
水	midzu	midu	midu	midu	midu
畳	tatami	tatami	tatami	tatami	tatami

なお、小野津方言の *midzu* (水) *tatami* (畳) は音対応の例外である。

連母音の融合による中舌母音も、以下の通りに唇調音のものに限られる。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
前	mē:	me:	me:	me:	me:
額	mētʃa:	metʃi:	mittʃe:	mittʃe:	mittʃe:
姪	miikk'wa	mikk'a	miikk'a	mikka	mikka
上	wi:	wi:	ji:	wi:	wi:
老人	wittʃ'u	wittʃ'u	ji:ttʃ'u	wittʃ'u	wittʃ'u
甥	wikk'wa	wikk'a	ji:kk'a	wikka	mikka

## 2. 2. 岩倉市郎の「ニ」と「ネイ」

喜界島方言には、古くは自身ネイティブでもある岩倉市郎によって「ニ」とは区別して「ネイ」と表記されている拍が存在することが報告されている(岩倉 1941)。この音声実態は以下(湾方言の語例)に示すとおり母音の実質による対立というよりは、子音部分の口蓋化の有無による対立と観察することができる。

ニ *ni:* (荷) *jiku* (肉) *kupi* (釘) *niʃi* (北) *nijui* (煮る) *niji* (棘) *wuji* (砂糖黍)

ネイ *ni* (根) *hani* (金) *muni* (胸) *tani* (種) *ɸuni* (骨・船) *ɕini* (髭) *?ini* (稲)

半世紀以上前の岩倉の観察と比較して、現時点での筆者の観察では、すべての喜界島諸方言でこの対立が明確に残存しているわけではなく、地点によりあるいは個人によって対立が曖昧化または消失する傾向が見られるが、基本的に喜界島方言全域の基層にこの対立が存在したことは確認できる。

これはちょうど、伊江島方言や沖永良部島国頭方言などでサ行音において中舌母音拍の痕跡(*si* / *ʃi* など)が観察されると同種の現象と考えることができ、輝(1981・1984)では、かつてナ行で/*ni* / [*ni*]と/*ni* / [*ni*]が対立していた痕跡として中舌母音とは見なしていない。筆者も同様に解釈し、統合に至る過程としての近似統合 *near-merger* の状態として、以下のように弁別の特徴の転嫁と機能付加量の減少が生じている段階と捉えることができる。

[*ni* / *ni*]・・・基本的には一般的母音による対立、子音の口蓋化は付随的

→ 音素対立として安定的

[*ni* / *ni*]・・・対立は子音の口蓋化のみ、他に口蓋化で対立する子音系列なし

→ 音素の対立としてはきわめて不安定

このようなエ段・オ段の半広母音の高母音化に伴う子音の近似統合現象は、奄美を含めた琉球方言において枚挙に暇がなく、これらの極小な機能付加量により安定的な音素体系の一部を構成すると考えるのは大きな無理がある。また、高母音化によって転嫁された弁別の特長の様式(ここでは子音の口蓋化)が一定程度の一般性を持って当該方言の音素体系の中で機能負担量を増大しない限り、このような対立は安定的に永続せずにやがて完全な統合に至ると考えられる。また、実態として若い世代においてはこのような対立が失われてしまい、より一般的な音項へと統合されていることが観察される。

## 2. 3. 本土《ス・ズ・ツ》《シ・ジ・チ》《セ・ゼ》に対する対応

琉球方言全般にわたって本土方言の《ス・ズ・ツ》と《シ・ジ・チ》に対応する拍は統合しており、南奄美・沖繩・与那国方言ではイ母音の C i 拍に、宮古・八重山方言の大半は中舌母音の C i に対応している。北奄美の名瀬市周辺以外の方言では、《ス・ズ・ツ》と《シ・ジ・チ》は統合しておらず、それぞれイ段 C i 拍 / 中舌 C i 拍(稀にウ段拍)という対立を示している。

また、本土《セ・ゼ》に対応する拍については、北奄美以外の南奄美・沖縄・宮古・八重山・与那国方言でイ母音の C i 拍に対応しており、北奄美の名瀬市周辺以外の方言では、《ス・ズ・ツ》と統合して中舌 C i 拍となって、《シ・ジ・チ》対応のイ段 C i 拍と対立している。名瀬市周辺方言では、《ス・ズ・ツ》《シ・ジ・チ》《セ・ゼ》はすべてイ段 C i 拍もしくは中舌 C i 拍に完全に統合されている。

また、奄美に近接する九州南部方言に色濃く残されている四つ仮名音韻の対立は、琉球方言全般にわたって全く観察されない。北奄美方言においても直接四つ仮名音韻の対立に該当する現象は存在しないが、以下に示すような [ du・tu ] といった音現象が存在することは、四つ仮名解消と《ス・ズ・ツ》《シ・ジ・チ》の統合・対立の両過程が何らかの歴史的関係を持つ可能性を示唆すると考えられる。

北奄美の北のはずれに位置する喜界島方言においては、子音部分の無気化を捨象して示せば、これらの拍は基本的に以下のような統合・対立関係を構成している。

	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
《ス・ズ・ツ》	su/dzu/tsu	su/du/tu	su/du/tu	su/du/tu	su/du/tu
《シ・ジ・チ》	ʃi/dʒi/tʃi	ʃi/dʒi/tʃi	ʃi/dʒi/tʃi	ʃi/dʒi/tʃi	ʃi/dʒi/tʃi
《セ・ゼ》	ʃi/dʒi	ʃi/dʒi	ʃi/dʒi	ʃi/dʒi	ʃi/dʒi

注目すべきことは、小野津で破擦音、小野津以外で摩擦音というちがいはあるものの、《ス・ズ・ツ》がウ段音に、《シ・ジ・チ》がウ段音に対応しているという点である。これは、3. で後述する与路島・請島方言にも該当することである。

南奄美方言以南の琉球方言の大半、そして本土の東北方言・出雲方言を含めて、中舌母音が存在する諸方言において《ス・ズ・ツ》と《シ・ジ・チ》がそれぞれウ段音・イ段音を保持している方言はない。奄美の中舌母音の歴史的な性格を想定する上で、一般に言われているエ段起源とは別に、北奄美周辺地域における《ス・ズ・ツ》《シ・ジ・チ》《セ・ゼ》に動向に関する綿密な比較研究が必要であると考えられる。関連する拍を含む語形を示すと以下の通りである。

《ス・ズ・ツ》関連

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
煤	susu	susu	susu	ʃuʃu	susu
裾	susu	susu	susu	ʃuʃu	suso
臼	?usu	?usu	?usu	?uʃu	?usu
脛	suni	suni	suni	tubuʃi	supi
砂	sunā	sunā	sunā	ʃunā	sunā
巢	su:	su:	su:	ʃu:	su:
済んだ	suda	sudi	suda	ʃumeti	sudan
酸っぱい	ʃisa	susa	susa	ʃuppafari	su:berasa
傷	k'idzu	k'idu/k'idzu	tʃ'idu	tʃ'idu	tʃ'idu
水	midzu	midu	midu	midu	midu
杵	?adzumu	?adumu	?adumu	?adimu	?adumu
患う	wadzure:	waddajun	—	jamori	japi
いつ	?itsu	?itu	?itu	?itu	?itu
月	tukinui	tukinui	tsuki	tʃuʃunui	tʃuʃinui

暑い	?attʃa	?atusa	?atusa	?atusa	?atusa
五つ	?itsutsu	?itutu	?itutu	?itutu	?itutu
膝	tsubuʃi	t'ubuʃi	t'ubuʃi	tubuʃi	tubuʃi
唾	tsubbe:	t'umbe:	t'umbe:	t'umbe:	t'umbe:
夏	natsu	natu	natu	natu	natu
角	tsunu	tunu	tunu	tunu	tunu
網	tsuna	tuna	tuna	tuna	tuna
爪	tsumi	tumi	tumi	tumi	tumi
面	tsura	tura	tura	tʃura	tura
筒	tsutsu:	tutu	tutu:	tutu:	tatu
注ぐ	taraʃi	tʃʌN	tʃʌN	tʃʌN	tudʒui
壺	tsubu	tubu	tubu	tʃubu	hamika:

## 《シ・ジ・チ》関連

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
汁	ʃiru	ʃiru	ʃiru	ʃiru	ʃiru
島	ʃima	ʃima	ʃima	ʃima	ʃima
肉	ʃiʃi	niku	niku	niku	niku
牛	?uʃiŋa:	?uʃi	?uʃi	?uʃi	?uʃi
腰	ɸuʃi	ɸuʃi	ɸuʃi	ɸuʃi	ɸuʃi
虱	ʃiami	ʃirami	ʃirami	ʃirami	ʃirami
北	niʃi	niʃi	niʃi	niʃi	niʃi
虫	muʃiŋa:	muʃi	muʃi	muʃi	muʃi
星	ɸuʃi	ɸuʃi	ɸuʃi	ɸuʃi	ɸuʃi
死んだ	ʃidʒa	ʃidʒi	ʃidʒa	ʃidʒando:	ʃidʒʌN
字	dʒi:	dʒi:	dʒi:	dʒi	dʒi:
地	dʒida	dʒida	dʒida	dʒida	dʒida
味	?adʒi	?adʒi	?adʒi	—	?adʒi
蛆	?udʒi	?udʒi	?udʒi	?udʒimuʃi	?udʒi
火事	mekwadʒi	k'adʒi	k'adʒi	?umatu	k'adʒi
舵	kadʒi	kadʒi	kadʒi	kadʒi	kadʒi
乳	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:
血	tʃ'i:	?a:tʃi:	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:
近い	tʃikasa	tʃikasa	tʃikasa	tʃikasa	tʃikasa
命	?inutʃi	?inutʃi	?inutʃi	?inutʃi	?inutʃi
口	k'utʃi	k'utʃi	k'utʃi	k'utʃi	k'utʃi

## 《セ・ゼ》関連

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
瀬	p <sup>h</sup> ibana	ʃi:	ʃi:	ʃi:	ʃi:
汗	?aʃi	?aʃi	?aʃi	?aʃi	?aʃi

年長者	ʃidʒa	ʃida	—	wittʃu	ʃida
風	hadʒi	hadi	hadi	hadi	hadi
膳	dʒin	dʒin	dʒin	dʒin	dʒin
錢	hani	hani	dʒin	həni	həni
櫛	hadʒi	hadi	hadi	hadi	hadi
辻	?adʒimitʃi	?adimitʃi	—	—	dʒumondʒi

#### 2. 4. P・F・H音

北奄美においてP音を保有する方言は大島北端の佐仁方言と喜界島方言のみである。喜界島においてもP音を保持するのは調査地点の中では小野津・塩道・阿伝方言であるが、P音とF音[ɸ]との間の揺れも観察され、語形によってはH音で発音されるものもある。湾・上嘉鉄方言ではP音は観察されなかった。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
髭	pini	pini	çini	çigi	piçi:
斜面	pija	pira	çira	çira	ʃira
昼	piru	piru	çiru	—	piru
正午	—	pimma	maçimma	maçimma	—
へら	pira/ɸira	pira	hera	—	çira
屁	pi:	pi:	çi:	çi:	ɸi:/çi:
下手	pita/ɸita	pita	heta	—	ɸita
垢	piŋgu/ɸiŋgu	piŋgu	çiŋgu	çiŋgu	piŋgu
歯	pa:	pa:	ha:	ha:	ɸa:
花	pana	pana	hana	hana	pana/hana
鼻	pana	pana	hana	hana	pana/hana
浜	pama	pama	hama	hama	hama
墓	paka	paka	haka	—	ɸaka/haka
蜂	patʃi	patʃi	hatʃi	hatʃi	patʃi
鋏	pasami	pasami	hasami	—	hasami
羽	pani	pani	hani	həni	paɸni
船	puni/ɸuni	puni	ɸuni	ɸuɸni	ɸuɸni
骨	puni/ɸuni	ɸuni	ɸuni	ɸuɸni	ɸuɸni
吹く	ɸukju:	ɸutʃui	ɸutʃi	—	ɸutʃui
帆	pu:/ɸu:	ɸu:	ɸu:	ɸu:	p <sup>h</sup> u:
星	ɸuʃi	ɸuʃi	hoʃi	—	ɸuʃi
掃く	po:kju:	po:tʃui	ho:tʃi	ho:tʃiʃu	ho:tʃui
位牌	?ipe:/?iɸe:	?ip <sup>h</sup> e:	?ihe:	?ihe:	?iɸe:

#### 2. 5. 喉頭化音および無気子音

母音及び半母音拍に関して、奄美方言の特徴として一般的に知られている喉頭化音と非喉頭化音との対立が喜界島方言においても以下のように存在する。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
柄	ji:	ji:	ji:	ji:	ti:
いぐさ	ji:	ji:	ji:	—	ji:
亥	?i:	—	ji:	?i:	ji:
音	?utu	?utu	?utu	?utu	?utu
夫	?utu	wutu	wutu	wutu	gutu
織る	?ujui	?ujui	?uri	?uri	?uɛN
折る	?ujui	wujui	wuri	wuri	guɛN

例外的に、湾方言においては [ʔi] と [ji] の対立が存在せず [ji] に統合している。小野津方言においては [ʔu] と [wu] の対立が失われ [ʔu] に統合しており、阿伝方言においては対立が存するものの [wu] に相当する拍が [gu] へと velarize の方向に変化している。

また、無声閉鎖系列子音のエ段拍・オ段拍の高母音化によって生じた無気閉鎖系列と有気閉鎖系列の子音拍の対立 [C'i / Ci] [C'u / Cu] も、奄美全般と同様に伝統的な喜界島方言の特色となっているが、地点により、あるいは話者により、あるいは語中などの音環境によっては、そのような対立を失いつつあるケースも見られる。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
牙	k'iba	k'iba	k'iba	k'iba	k'iba
肝	k'imu	tʃ'imu	tʃ'imu	tʃ'imu	tʃ'imu
切る	k'ijui	tʃ'ijun	tʃ'irun	—	tʃ'ijui
着る	k'ijui	tʃ'ijun	tʃ'irun	—	tʃ'ijui
着物	k'in	tʃ'in	tʃ'in	tʃ'in	tʃ'in
声	kui	kui	kui	kui	kui
首	k'ubi	k'ubi	k'ubi	k'ubi	k'ubi
蜘蛛	φubu	k'umu	k'umu	k'ibu	k'imu
雲	k'umu	k'umu	k'umu	k'umu	k'umu
乳	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:
血	tʃ'i:	?atʃi:	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:

これらの高母音化による無気閉鎖子音とは別契機のものとして、語頭の1拍脱落による無気あるいは喉頭化（ここでは音声実態により無気音として表記）が観察されることは他の奄美方言と同様である。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
深い	k'uwas	k'asa	k'asa	k'asa	k'asa
子ども	k'wa	k'a	k'a	k'a	warabi
一つ	t'itsu	t'itu	t'itu	t'itu	t'itu
二つ	t'artsu	t'artu	t'artu	t'artu	t'artu
蓋	pita	φuta	t'a	φuta	ʃita
飼う	k'anai	k'anajun	k'anain	k'anain	k'anajui
人	tʃ'u	tʃ'u	tʃ'u	tʃ'u	tʃ'u

## 2. 6. 子音の口蓋化

カ行イ段《キ》に対応する拍において、イ母音の口蓋性が接続子音に影響を与えた結果、北部の小野津方言以外で口蓋化して以下のように [tʃi]、あるいはサ行音となっている。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
息	?iki	?itʃi	?itʃi	?itʃi	?itʃi
鱗	?ikki	?ittʃi	?ittʃi	?ittʃi	?ittʃi
歩く	?akkjun	?attʃun	?attʃuri	?attʃin	?attʃui
牙	k'iba	k'iba	k'iba	k'iba	k'iba
肝	k'imu	tʃ'imu	tʃ'imu	tʃ'imu	tʃ'imu
切る	k'ijui	tʃ'ijun	tʃ'irun	—	tʃ'ijui
着る	k'ijui	tʃ'ijun	tʃ'irun	—	tʃ'ijui
着物	k'in	tʃ'in	tʃ'in	tʃ'in	tʃ'in
帯	k'itsubi	tʃ'itʃ'ubi	tʃ'itʃ'ubi	tʃ'itʃ'ubi	tʃ'itʃ'ubi
今日	kju:	ʃu:	su:	ʃu:	su:
きれい	kjurasa	ʃurasa	surasa	ʃurasa	surasa
来る	kjui	ʃui	suri	—	ku:
搦く	tsukjui	t'utʃui	t'utʃuri	t'utʃi	t'utʃui
書く	kakjui	katʃun	katʃuri	katʃi	katʃui
動物	?ikimun	?itʃimun	?itʃimun	?itʃimun	?itʃimun

表中の「牙」については、例外的にすべての地点で口蓋化が観察されない。なお、ガ行イ段の拍についてはごく一部を除いて口蓋化が観察されず、[gi] もしくは [ŋi] [ɲi] など多様な拍であらわれることが多い。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
麦	mupi	mupi	mupi	mui	mugi
右	mipi:	migi	migi	migi	migi
釘	k'upi	k'upi	k'upi	k'ui	k'ugi
義理	giri	—	dʒiri	giri	—
鰻	?unagi	?unagi	?unagi	?unagi	?unagi
鍵	kagi	kagi	kagi	kagi	kagi
マッチ	tsukidʒi	tutʃidʒi	tutʃigi	tukidʒi	tukidʒi
砂糖黍	?uɲi	wuɲi	wuɲi	gui	gui

また、イ母音の口蓋性が後続子音に影響を与えた結果、次の拍が口蓋化する例も観察される。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
烏賊	?ikja	?ika	?ika	?ika	?ika
糸	?itsu:	?itʃu	?itʃu:	?itʃu	?itʃu:
夜漁	?idʒai	?idai	?idʒari	?idʒari	?idai
苦い	?inasa	ɲinasa	ɲinasa	ɲijasa	ɲijasa
土	mitʃa	mitʃa	mitʃa	mitʃa	mitʃa
死んだ	ʃidʒa	ʃidʒi	ʃidʒa	ʃidʒando:	ʃidʒan



## 2. 7. ガ行鼻濁音と鼻母音

琉球諸方言においてガ行鼻濁音を有するのは最西端の与那国方言と最東端の喜界島方言のみである。喜界島方言の鼻濁音は、与那国方言のような音対応上の明確な規則性を持ってあらわれず、以下のように地点による相違が著しく大きい。ガ行音の前鼻音段階から何らかの契機によって生じたと考えられるが特定は困難である。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
犬	?iŋga:	?iŋga:	?iŋga:	?iŋga:	?iŋga:
男	jiŋga	jiŋga	jiŋga	jiŋga	jiŋga
顎	?utuŋe:	?ago	?utage:	?utaje:	?agu
牛	?uŋja:	?uŋi	?uŋi	?uŋi	?uŋi
鰻	?unagi	?unagi	?unagi	?unagi	?unagi
影	haŋa:	kagi	kage	hai	—
拝む	?uŋamijui	?uŋamjui	?uŋami	?uŋamifu	?uŋamui
長い	naŋa:sa	nagasa	naŋasa	nagasari	nasa
道具	do:ŋu	do:gu	do:gu	do:gu	do:gu
漕ぐ	ɸuŋjuŋ	ɸuŋjuŋ	ɸudzuŋ	ɸuiŋ	ɸuŋ
継ぐ	tsuŋjuŋ	tuŋjuŋ	tuŋjuri	t'ui	—
正月	so:ŋatfi	ŋo:gatu	so:gatu	ŋo:atfi	ŋo:gatu
台所の棟	toŋga	tuŋga	—	toŋga:	toŋga
いざり	ne:ŋja:	ne:ŋa	—	ne:dza:	ne:ja
孫	?umaŋa:	magu	?maga:	mawa:	magu

また、阿伝方言においては、このような鼻濁音と関連する現象として以下のような鼻母音拍を観察することができる。

項目	小野津	塩道	湾	上嘉鉄	阿伝
蟻	?a:ŋi:	?a:ŋi:	?a:ŋi	?ai	?a:i:
髪	hassaŋi:	haŋsaŋi:	hassaŋi:	hassai	hassa:i:
魚の小骨	?i:ŋi	ŋi:ŋi	ŋi:ŋi	ŋi:	ŋi:
卵	ɸuŋja:	ɸuŋja:	tamagu	tamagu	ɸu:a:
蟹	ga:ŋi:	ga:ŋi	ga:ŋi:	gai:	ga:i:
泳ぎ	?o:ŋi:	?o:ŋi	?u:ŋi:	?ui:	?u:i:
桑	k'wa:ŋi:	k'agi	k'a:ŋi:	k'ai:	k'a:i:

## 3. 瀬戸内町方言の音韻の概要

奄美大島南部に位置する瀬戸内町は、有人島として奄美大島・加計呂間島・請島・与路島の四島から成り立っている。大島水道に面する大島側と加計呂間島については、三石(1980)・狩俣(1995・1996)など従来もある程度まとまった報告がなされてきたが、その南の請島については春日(1974)がある程度で、さらに海を隔てた与路島については地元研究者である屋崎一氏による俚諺集『おやふちぬ言葉』(1987)及び『与路島誌』(2002)があるものの、特に音韻についてはまとまった報

告がなされていない。本報告では、大島側の嘉鉄方言、加計呂間島の渡連方言、請島（請安室）方言、与路島方言についてその概要を報告する。

### 3. 1. 中舌母音

瀬戸内町方言の中舌狭母音  $\text{C}i$  は、他の奄美大島諸方言と同様にほとんどの子音接続において観察される。喜界島方言における  $[\text{ni}/\text{pi}]$  のような子音の口蓋化のみによる見かけ上の不安定な対立もなく、中舌母音  $\text{ni}$  とイ段拍  $\text{ni}$  の対立となっている。与路島・請島方言の場合には  $[\text{?in}]$  (犬) のように母音単独拍においても中舌母音が観察される点に特色がある。また、与路島方言の  $/i/$  は音声的にやや奥舌寄りの  $[i \sim \text{ii}]$  にわたるヴァリエーションを持っている点も特色である。これらの中舌母音は本土エ段音に対応するものが多く、以下のような語例があげられる。なお、本土  $\ll \text{ス} \cdot \text{ズ} \cdot \text{ツ} \gg$  に対応する中舌母音拍の問題点については、エ段音起源とは別に後述する。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
犬	?in	?in	?in	?in
いつ	?iti	?it i	?it	?it
屁	phi	phi	phi:	phi:
へら	phira	çirja	hiira	hiira
羽	phari	phari	hari	hari
影	kagi	kagi	kagi	kagi
煙	kibuʃ	kibur	kibuʃ	kibuʃ
マッチ	titik	mattʃi	tukik	dant'ikik
袖	sudi	sud i	sudi	sud i
出来る	d'ikijum	d'ihirjun	d'ikijum	d'ikijum
手	ti:	t i:	ti:	t i:
天井	tindʒo	t'indʒo	tindʒo	t'indʒo
呉れる	kuʃijum	k'urijum	kuʃirjum	k'urirjum
割れる	warita	warit i	warirjum	warijum
腐る	kusarita	kusarit i	kusariti	kisarijum
根	ni	ni:	ni:	ni/nigur
鼠	nidum	nid'im	nidum	nidum
船	phuni	phuni	phuni	phuni
骨	phuni	phuni	phuni	phuni
金属・銭	kani	kani	kani	kani
胸	muni	muni	muni	muni
種	tani	tani	tani	tani
鍋	nabi	nabi	nabi	nabi
目	mi	mi:	mi	mi:
牝牛	mi:ʔuʃ	miuʃ	wonakʔuʃ	mi:ʔuʃ
嫁	jumi	jumi	jumi	jumi
豆	mami	mami	mami	mami
爪	t'imii	t'imii	tumi	t'umii

姪	mī:	mikkwa:	mī:	mī:
---	-----	---------	-----	-----

ただし、以下のような対応外の語例も少なからず観察される。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
指	ʔi:bi	jubi	ʔ'ibi	ʔu:bi/ʔ'ibi
草	kusa	kusa	kusa	kisa
臭い	kusasa	kusasa	kusasa	kisasa
桑	k'wargi	k'wagi	k'wargi	k'wargi
水	mīt	mīt	mīt	mīt
畳	tatamē	tatami	tatami	tatawi~

エ段の中舌半広母音拍 C ē も多く観察され、これは主として《アイ・アエ・オエ・アヤ》などの母音連続や《アケ》などのカ行子音が脱落して融合して生じたものが多く、以下の語例が挙げられる。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
早い	ʔē:ka	ʔē:sa	hē:sa	hē:sa
祝い	juwē	juwē	juwē	jowē
太った	k'wētum	k'wēt'i	k'wētum	k'wēti
兄弟	kjo:de	kjo:de	kjo:de	kjo:dē
大概	tē:gē	tē:gē	tē:gē	tē:gē
丈	tēhē	tēhē	tē:	tē:
大根	deŋkuni	deŋkuni	de:kuni	dē:kuni
大工	sekja	sek	sek	sēk
鹽	tare	tarē	tare:	tarē
前	mē	mē:	mē:	mē:

また、上記の音対応でありながら中舌狭母音拍 C i に対応するものも下記のように観察される。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
杓文字	miʃige	miʃige	miʃiki	miʃki
畑	hatēhē	hatēhē	hate:	hat'i

一般に奄美方言の狭・半広二種の中舌母音はエ段音または連母音融合によって生じたとされるが、大野 (2002) をはじめ、狩俣 (1995・1996)、ローレンス・ウェイン (2000) で示唆されているように、いずれかの部分で生じた中舌母音が形態内の隣接拍に拡張する離れ同化によると考えられる中舌化も以下のように数多く観察される。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
夢	ʔimi	ʔimi	ʔ'imi	ʔ'imi
桶	wixi	nubu	ʔuʔē	wi:
位牌	ʔiʔē:	ʔiʔē	ʔiʔē:	ʔi:ʔē:/ʔeʔē
喉	nudu	nubi	nībui	nībui
出来る	d'ikijum	d'ihirjun	d'ikijum	d'ikijum
畑	hatēhē	hatēhē	hate:	hat'i

## 3. 2. 本土《ス・ズ・ツ》《シ・ジ・チ》《セ・ゼ》に対する対応

後述する閉音節化により該当拍が子音単独化している場合が多く、語例を喜界島等の他地点程度示すことができない困難さはあるが、以下の傾向を指摘することができる。

大島側の嘉鉄、加計呂間島の渡連は、名瀬周辺以外の奄美大島方言と同様に、《ス・ツ》と《セ》は中舌母音拍 Ci に統合し、《シ・ジ・チ》はイ母音拍 Ci となっている。なお、《ゼ》《ズ》については対応が一様にはなっていない。

一方で、請島方言・与路島方言においては、《ス・ツ》が喜界島方言と同様にウ母音拍 Cu、《セ》が中舌母音拍 Ci、《シ・ジ・チ》はイ母音拍 Ci、のような対応を見せている。《ゼ》《ズ》については対応が一様にはなっていない。

このように《ス・(ズ)・ツ》《シ・ジ・チ》《セ・(ゼ)》が三者とも独立した対応を示すのは、奄美も含めて琉球方言全体の中でも請島・与路島に限られており、該当拍の歴史の中に位置づけると最古層の状態を保っていると解釈される。子音部分の無気化を捨象すると以下のような対立関係として示すことができる。

	嘉鉄	渡連	請安室	与路
《ス・ツ》	si/ti	si/ti	su/tu	su/tu
《シ・ジ・チ》	ʃi/dʒi/tʃi	ʃi/dʒi/tʃi	ʃi/dʒi/tʃi	ʃi/dʒi/tʃi
《セ》	ʃi	ʃi	si	si

閉音節化した語例や明確な対応を示さない語例も含めて、関連語形を示すと以下の通りである。

## 《ス・ズ・ツ》関連

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
煤	sisi	sisi	susu	susu
裾	siso	suso	suso	suso
臼	?usi	?usi	?usu	?usu
脛	hagi	siri	hagi	sunii
砂	sina	sina	sunu	sunu
巢	si	si	su	sur
済んだ	sida	sida	suda	sudi
酸っぱい	si:sa	si:sa	susa	susa
傷	kit	kit	kit	kit
水	niit	niit	niit	niit
杵	?adim	?adim	?adum	?adum
患う	watrajum	wad'irat'i	wadirati	warrati
鼠	niidum	niid'im	niidum	niidum
塩漬け	majudiki	majudik	majutuki	majudik
いつ	?iti	?it'i	?it	?it
月	?udiksama	t'iki	tuk	tokkjo
暑い	?atka	?atta	?atta:	?atta:
五つ	?itit	?it'i t'i	?itut	?itut
命	?inotʃ	?inotʃ	?inotʃ	?inutʃ
膝	tibuʃ	t'ibuʃ	tubuʃ	tubuʃ

近い	tʃikjaka	tʃikjasa	tʃikjasa	tʃikjasa
飼う	tikanajum	t'ikanat i	tukanajum	tikanajum
唾	t'idi	t'id'i	tudu	t'udu
夏	nat	nat	nat	nat
角	t'ino	t'ino	tuno	t'unu
網	t'ina	t'ina	tuna	t'una
爪	t'imii	t'imii	tumii	t'umii
面	t'ira	t'ira	tura	t'ura
筒	t'it'i	t'it'i	tutu	t'ut
注ぐ	t'igjum	t'idzi	tugjum	t'ugjum
壺	kamii	kamii	tubu	t'ubu

## 《シ・ジ・チ》関連

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
汁	ʃiru	ʃiru	ʃiru	ʃiru
島	ʃima	ʃima	ʃima	ʃima
肉	ʃiʃi	ʃiʃi	ʃiʃi	ʃiʃi
牛	ʔuʃ	ʔuʃ	ʔuʃ	ʔuʃ
腰	kuʃ	kuʃ	koʃ	koʃ
虱	ʃirjam	ʃirjam	ʃirjam	ʃirjam
北	niʃ	niʃ	niʃ	niʃ
虫	muʃ	muʃ	muʃ	muʃ
星	ʔuʃi	ʔuʃ	ʔuʃ	ʔuʃi
死んだ	ʃidʒa	ʃidʒa	ʃidʒa	ʃidʒi
字	dʒi	dʒi:	dʒi:	dʒi:
地	dʒi	dʒi:	dʒi:	dʒide
味	ʔadʒe:	ʔadʒi	ʔadʒe:	ʔadʒi
蛆	ʔudʒi	ʔudʒi	ʔudʒi	ʔudʒi
火事	kwadʒi	kwadʒi	kwadʒi	k'wadʒi
舵	katʃ	katʃ	katʃ	katʃ
乳	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:
血	tʃ'i	tʃ'i	tʃi	tʃi
近い	tʃikjaka	tʃikjasa	tʃikjasa	tʃikjasa
命	ʔinotʃ	ʔinotʃ	ʔinotʃ	ʔinutʃ
口	kutʃ	k'utʃ	kutʃ	kutʃ

## 《セ・ゼ》関連

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
汗	ʔasi	ʔasi	ʔasi	ʔasi
年長者	sida	sida	sida	sida
風	kade:	kadʒe	kade	kade

膳	dʒiN	dʒiN	dʒiN	dʒiN
銭	kani	kani	kani	kani
櫛	sabë	hadʒigi	hadʒigi	hadʒigi
辻	ʔadimitʃ	—	ʔad i	ʔad'imitʃ

### 3. 3. 閉音節化

奄美大島南部から加計呂間・請・与路などの瀬戸内町方言に特徴的な閉音節化については、柴田 (1984)・狩俣 (1995・1996) に条件に関する記述が詳細に述べられている。特に、狩俣 (1995・1996) に示されているアクセントと閉音節化との関係については、あらためて筆者による調査によっても確認することができた。すなわち、閉音節化が起こらない周辺諸方言で /g・k・z・c・r・s・b・m/ のいずれかの子音+狭母音に相当している拍は、瀬戸内町方言ではアクセントの高さが伴わない場合に限り、母音が弱化・脱落し先行拍とともに閉音節化する。与路島方言を例にアクセントとの関係を説明すると以下のようなものである (なお、アクセントの高ピッチ拍の表示は [´] による)。

/g・k/

・閉音節化する場合

[kúk] (釘) [ʔók] (扇) [wonák] (女) [mík] (右) [ʔunák] (鰻) [mák] (旋毛) [sawáˊk] (櫛)

・閉音節化しない場合

[ʔiki] (息) [hagi] (足) [wugi] (砂糖黍) [çigi] (髭) [mugi] (麦)

/z・c/

・閉音節化する場合

[míˊt] (水) [kít] (傷) [ʃo:ɡát] (正月) [ʔit] (いつ) [ʔitút] (五つ) [nát] (夏) [kátʃ] (舵) [ʔimútʃ] (命) [tútʃ] (妻) [hátʃ] (蜂) [kútʃ] (口) [mítʃ] (道)

・閉音節化しない場合

[wudʒi] (叔父) [ʔadʒi] (味) [ʔudʒi] (蛆) [kwˊadʒi] (火事)

/r/

・閉音節化する場合

[çír] (昼) [gír] (義理) [ʃibár] (小便) [túr] (鳥) [ʔedár] (夜漁)

・閉音節化しない場合

[dirú] (泥) [jurú] (夜) [marí] (尻) [harí] (針)

/s/

・閉音節化する場合

[ʔúʃ] (牛) [kóʃ] (腰) [garáʃ] (鳥) [kibúʃ] (煙)

・閉音節化しない場合

[ʔiʃi] (石) [ʃuʃi] (星) [ʃiʃi] (肉) [ʔusu] (臼) [susú] (煤)

/b/

・閉音節化する場合

[ʔip] (海老) [kúp] (首)

・閉音節化しない場合

[kˊubú] (蜘蛛)

/ m /

- ・閉音節化する場合

[ kám ] (紙) [ kagám ] (鏡)

- ・閉音節化しない場合

[ ?umi ] (海) [ ?ami ] (網) [ nami ] (波) [ mimi ] (耳)

閉音節化しないものも含め、瀬戸内町4地点の関連拍を含む語形について、アクセントを付して示すと以下の通りである。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
釘	kúk	kúk	kúk	k'úk
扇	?ók	?ók	?ók	?ók
女	wunák	wunák	wunák	wonák
右	mík	mík	mík	mík
鰻	?unák	?unák	?unák	?onák
旋毛	matútʃ	mák	mák	mák
櫛	sabák	sabák	sabák	sawáːk
息	?íkí	?íkí	?íkí	?íkí
足	—	hagí	—	hagí
砂糖黍	wugí	wugí	wugí	wugí
髭	çigí	çigí	çigí	çigí
麦	mugí	mugí	mugí	mugí
水	mí't	mí't	mí't	mí't
傷	kít	kít	kít	kít
正月	ʃo:gwát	ʃo:gwát	ʃogwát	ʃo:gáts
いつ	?ití	?it'í	?i't	?i't
五つ	?itít	?it'ití	?itú:t	?itút
夏	nát	nát	nát	nát
舵	kátʃ	kátʃ	kátʃ	kátʃ
命	?inótʃ	?inótʃ	?inótʃ	?inútʃ
妻	tútʃ	tútʃ	tútʃ	tútʃ
蜂	hátʃ	hátʃ	hátʃ	hátʃ
口	kútʃ	k'útʃ	kútʃ	kútʃ
道	mítʃ	mítʃ	mítʃ	mítʃ
伯・叔父	wútʃ	wudʒí	wudʒí	wudʒí
味	?adzé:	?adzí	?adzé:	?adzí
蛆	?udʒí	?udʒí	?udʒí	?udʒí
火事	kwadʒí	kwadʒí	kwadʒí	k'wadʒí
昼	çír	çír	hí'r	çír
義理	gír	gír	gír	gír
小便	ʃibár	ʃibár	ʃibár	ʃibár

鳥	túr	túr	túr	túr
夜漁	?idár	?idár	?idár	?edár
泥	durú	durú	durú	dirú
夜	jurú	jurú	júr	jurú
尻	marí	marí	marí	marí
針	harí	harí	harí	harí
牛	?úʃ	?úʃ	?úʃ	?úʃ
腰	kúʃ	kúʃ	kóʃ	kóʃ
烏	garás	garás	garás	garás
煙	kibúʃ	kibúr	kibúʃ	kibúʃ
石	?iʃ	?iʃ	?iʃ	?iʃ
星	φuʃi	φúʃ	φúʃ	φuʃi
肉	ʃiʃi	ʃiʃi	ʃiʃi	ʃiʃi
白	?usi'	?usi'	?usú	?usú
煤	sisi'	sisi'	susú	susú
海老	?ip	?ip	?ip	?ip
首	kúp	kúp	kúp	k'úp
蜘蛛	kubú	k'ubú	kubú	k'ubú
紙	kám	káp	kám	kám
鏡	kagám	kagám	kagám	kagám
海	?umí	?umí	?umí	?umí
網	?amí	?amí	?amí	?amí
波	namí	namí	namí	namí
耳	mimí	mimí	mimí	mimí

また、このような閉音節化は必ずしも語末に限定される現象ではなく、狩俣（1995・1996）の指摘するとおり、条件さえ整えば以下のように語中においても同様に認められることが確認された。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
枕	makrá	makrá	makrá	makrá
下駄	gitá	getá	?afdzá	?afdzá
道具	dók	dók	dók	doksák
三味線	samʃin	samseñ	samseñ	samʃeñ
油	?abrá	?abrá	?abrá:	?abrá
動物	?ikmuñ	?ikmuñ	kidámun	?ikmuñ

### 3. 4. F・H音

四地点ともP音は観察されず、F音[φ]が語的に観察されるものの大勢はH音となっている。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
髭	çigi	çigi	çigi	çigi
斜面	çirja	çirja	çirja	çirja



昼	çir	çir	hir	çir
正午	çimma	çimma	himma	çimma
日 (太陽)	tida	t'ida	tida	teda
膝	tibuɟ	t'ibuɟ	tubuɟ	tubuɟ
位牌	?iɸe:	?iɸe	?iɸe:	?i:ɸe:/?eɸe
下手	—	çita	—	heta
花	hana	hana	hana	hana
鼻	ɸana	hana	hana	hana
浜	hama	hama	hama	hawā
墓	haka	haka	haka	haka
蜂	ɸatɟ	hatɟ	hatɟ	hatɟ
鋏	hasam	hasam	hasam	hasam
羽	ɸari	ɸari	hari	hari
船	ɸuni	ɸuni	ɸuni	ɸuni
骨	ɸuni	ɸuni	ɸuni	ɸuni
吹く	ɸukjum	ɸuki	ɸukjum	ɸukjum
深い	ɸukasam	ɸukasa	ɸukasa	ɸukasa
帆	ɸu:	ɸu	ɸu:	ɸu:
星	ɸuɟi	ɸuɟ	ɸuɟ	ɸuɟi
掃く	hok	hokki	hok	ɸukjum
へら	ɸira	çirja	hira	hira
屁	ɸi	ɸi	ɸi:	ɸi:
垢	çiguru	çiguru	ɸiguru	çiguru
歯	ɸa	ɸa:	ɸa:	ha:

### 3. 5. 喉頭化音および無気子音

母音及び半母音拍に関して、奄美方言全般の特徴である喉頭化音と非喉頭化音との対立は、瀬戸内町方言においても以下のように一般的である。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
石	?iɟ	?iɟ	?iɟi	?iɟi
海老	?ip	?ip	?ip	?ip
柄	ji:	ji:	ji:	ji:
いぐさ	ji:	ji:	ji:	ji:
座る	jirjun	jirjun	jirjum	jirjun
亥	ji:	ji:	ji:	ji:
音	?utu	?utu	?uto	?oto
夫	wutu	wutu	wutu	wutu
妻	tutɟ	tutɟ	tutɟ	tutɟ
織る	?ujum	?ut'i	?urjum	?orjum

折る	wujum	wut'i	wurjum	wurjum
女	wunak	wunak	wunak	wonak
鰻	?unak	?unak	?unak	?onak
湯	ju:	ju:	ju:	ju:
魚	?ju:	?ju:	?ju:	?ju:
言う	?ju:	?jut'i	?ju:	?jum
百合	jur	jur	jur	jur
豚	?wa:	?wa:	?wa:	?wa:

無声閉鎖音系列のエ段拍・オ段拍の高母音化に伴う無気閉鎖音系列と有気閉鎖音系列の子音拍の対立 [C'i/Ci][C'u/Cu] が存在し、地点、話者、音環境などによって対立を失いつつあるのも喜界島方言と同様である。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
牙	k'iba	k'iba	kiba	k'iba
肝	k'imo	k'imo	kimo	k'jō:
切る	k'ir	kitʃi	kirjum	k'irjum
着る	k'ir	kitʃi	kirjum	k'irjum
着物	k'in	k'in	kin	k'in
声	kui	kui	kui	k'ui
首	kup	kup	kup	k'up
釘	kuk	kuk	kuk	k'uk
蜘蛛	kubu	k'ubu	kubu	k'ubu
雲	kumo	k'umo	kumo	k'umo
乳	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:	tʃ'i:
血	tʃ'i	tʃ'i	tʃi	tʃi

これらの高母音化による無気閉鎖子音とは別契機のものとして、語頭の1拍脱落による無気あるいは喉頭化（ここでは音声実態により無気音として表記）が観察されることは喜界島をはじめとする奄美方言一般と同様である。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
帯	kjup	k'jup	kjup	k'jup
子ども	k'wa:	k'wa	kwa	k'wa:
釣る	t'ijum	t'ir	k'wa:fum	k'wa:fum
一つ	t'it	t'it	t'it	t'it
二つ	t'at	t'at	t'at	t'at

### 3. 6. 鼻母音

鼻母音が与路方言において観察される。喜界島阿伝方言の鼻母音については歴史的に鼻濁音との関連が推察されると異なり、与路方言の鼻母音は、両唇調音の閉鎖鼻音 [m] の半母音 [w] 化及び鼻音性の後接母音への拡張によって生成されている。これは、南琉球竹富島に見られる鼻母音と同契機である。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
山	jama	jama	jama	jawã
浜	hama	hama	hama	hawã
肝	k'imo	k'imo	kimo	k'jõ:
釜	hagama	kama	hagama	kawã
鎌	kama	kama	kama	kawã
畳	tatamë	tatami	tatami	tatawi~
今	nama	nama	nama	nawã
亀	hami	kami	kami	kawi~
米	kumi	kumi	kumi	kuwi~

また、[m]以外に[b]の子音から変化したと思われる語も以下のように存在する。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
櫛	sabak	sabak	sabak	sawäk

なお、このような鼻母音化は、上記の音環境でかみならず実現するわけではなく、以下に示すような例外も多く存在する。

項目	嘉鉄	渡連	請安室	与路
網	?ami	?ami	?ami	?ami
海	?umi	?umi	?umi	?umi
正午	çimma	çimma	himma	çimma
砂糖車	sitaguruma	sitaguruma	sitaguruma	k'uruma
島	ʃima	ʃima	ʃima	ʃima
嫁	jumi	jumi	jumi	jumi
豆	mami	mami	mami	mami
爪	t'imii	t'imii	tumi	t'umii

## 謝辞

本稿のための臨地調査に際しては、話者として廻猛氏、岩村光子氏、山野みさ氏、吉塚廣次氏、乾進氏、昌貴一真氏、富豊西氏、上原慶三郎氏（以上、喜界町）、屋崎一氏、保芳男氏、与島彌氏、福島勇氏、福島登美子氏、泰田英氏、喜入清三氏、喜入初勇氏、直山富男氏、福山輝仁、渡甚英氏、森山力蔵氏、実島峯子氏、平島昭枝氏、沖島義一氏、嘉本康利氏、有田一俊氏、渡辺哲夫氏（以上、瀬戸内町）の諸氏にお世話になった。記して深甚なる謝意を表す。なお、本稿は文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究(C)(2)課題番号 15520240〕によりまとめた成果の一部である。

## 参考文献

岩倉市郎（1941）『喜界島方言集』

大野眞男（2002）「奄美諸方言における中舌母音の歴史的層性」『国語学研究』40

- 沖縄言語研究センター (1986) 『琉球列島諸方言の基礎語彙の言語地理学的研究 (沖縄言語研究センター資料 86)』
- 長田須磨・須山名保子 (1977・1980) 『奄美方言分類辞典』上・下
- 春日正三 (1974) 「奄美大島方言の研究 — 請島・池地方言の音節について —」 『永山勇先生退官記念国語国文学論集』
- 狩俣繁久 (1995・1996) 「鹿児島県大島郡瀬戸内町諸鈍方言のフォネーム (上・下)」 『琉球大学法文学部紀要・日本東洋文化論集』 1・2
- 木部暢子ほか (1997) 『日本のことばシリーズ 46・鹿児島県のことば』
- 柴田武・学生有志 (1977) 『奄美德之島のことば — 分布から歴史へ』
- 柴田武編 (1984) 『奄美大島のことば — 分布から歴史へ』
- 寺師忠夫 (1985) 『奄美方言、その音韻と文法』
- 輝博元 (1981) 「喜界島・中里方言の音韻」 『島田勇雄先生古希記念・ことばの論文集』  
— (1984) 「喜界島・坂嶺方言の音韻」 『講座方言学 10』
- 中本正智 (1976) 『琉球方言音韻の研究』
- 服部四郎 (1959) 『日本語の系統』
- 平山輝男・大島一郎・中本正智 (1966) 『琉球方言の総合的研究』
- 平山輝男編著 (1986) 『奄美方言基礎語彙の研究』
- 三石泰子 (1980) 「奄美大島瀬戸内町芝方言の音韻」 『熊本短大論集』 61
- ローレンス・ウエイン (2000) 「子音を越えて起こる母音の融合」 『音声研究』 4-1